

一般質問

鈴木三男議員



高すぎる国保税引き下げのべき  
なぜまた5億円も引き上げるのか

深谷市は、今年度、家族一人2、800円の国保税の引き上げをしたが、家族の多い世帯の負担は大変です。来年度も、5億円の引き上げを予定している。今でも高すぎる国保税の支払いに困っている。引き下げるべきではないか。なぜ、毎年、国保税を引き上げるのかとの質問に対して、市は、加入者の高齢化や医療の高度化もあり医療費が毎年増加している。平成30年度から県が財政運営の責任者になる制度改正により、県内でも低い水準にある国保税の引き上げが必要。また、一般会計からの繰り入れも12億円と多額であり、もうこれ以上の繰り入れはできない。などの理由で国保税の引き上げが必要だと答弁しました。

しかし、現在でも国保加入世帯で、所得が200万円以下の約8割の世帯で、国保税を滞納している。引き上げるべきではない、引き下げこそ必要と強く主張しました。

国保の申請減免の拡充と積極的な活用を

市の答弁では、今後も、市民の負担が増え続けることになるが、国保税の支払いに困っている市民に対して、申請減免の拡充をすべきではないかとの質問に、市は、「減免制度の拡充は、交付税措置の問題もあり難しいが、深谷市には、法定減免の他に、条例に基づく申請減免制度があるので、窓口で相談してほしい」との答弁でした。

この制度を国保加入世帯に広く知らせ、積極的な活用を求めました。

深谷市の水害対策は、大丈夫か

さる9月10日、茨城県内の鬼怒川の堤防が決壊し住宅や収穫直前の農地が濁流にのみこまれた。

深谷市の防災対策は、ゲリラ豪雨にも大丈夫かとの質問に、市は、災害対策計画、水害対策マニュアルもあり、避難情報、避難勧告や避難指示の発令基準も定めている。また、職員の初動対策マニュアルもあり、125自治会で自主防災組織もある。何よりも、市民の防災に対する備えが大切との答弁でした。

深谷市のハザードマップの訂正を

また、市のハザードマップには、河川の氾濫が発生してから避難指示を発令するかのイラストになっているが、氾濫が発生してからでは遅いのではないかと質問に、市は、氾濫が発生した時には、避難が完了していることを想定している。しかし、誤解を生むので見直し、工夫をすることとした。

深谷駅南口付近の上唐沢川の水害対策は

深谷駅南口付近の上唐沢川は、ゲリラ豪雨が発生すると水があふれ、付近の住宅に被害を及ぼす危険がある。岡部方面からくる上唐沢川と折之口方面からくる下唐沢川が合流する所に、高崎線が通っており、その橋の真ん中に鉄筋コンクリートの橋脚があるが、川幅も狭く、流木などが引っかけり流れを止めてしまふ心配がある。市の水害対策はあるのかとの質問に対し、市は、高崎線の橋脚は、JR高崎が管理し、水位計も整備し、警報もなる。市は、上唐沢川の日頃の整備や監視カメラの設置、川があふれる場合は、土嚢を積むなどの対策をとっているとのことでした。



一般質問

さくまなな議員



子ども3人以上で保育料が上がる!?  
子ども子育て支援新制度

2010年の年少扶養控除廃止に伴う所得税増額が保育料に連動しないよう、この間、同控除額を税額から差し引く「みなし適用」が行われてきました。しかし新制度になり現在深谷市は、この「みなし適用」を行っていません。理由は、国の保育料基準額が年少扶養控除の「みなし適用」を考慮した金額になっているからとのことでした。しかし、国の基準額は子ども2人までの年少扶養控除の反映なので、3人以上子どもがいる世帯の保育料があがります。そのため3人目以降の子ども「みなし適用」を引き続き行っている自治体もあります。深谷市でも「みなし適用」の復活ができないかの問いに、「みなし適用」の廃止が保育料に及ぼす影響は少なかつたと考えているとのこと。しかし、子どもの多い世帯での保育料の増額があることは認めました。新制度になって保育料はおよそ月額140万の増額だとのことでした。少子化問題が喫緊の課題となっている今、子どもが多ければ多いほど保育料が高くなる制度は社会に



深谷市の水害対策は、大丈夫か

さる9月10日、茨城県内の鬼怒川の堤防が決壊し住宅や収穫直前の農地が濁流にのみこまれた。

深谷市の防災対策は、ゲリラ豪雨にも大丈夫かとの質問に、市は、災害対策計画、水害対策マニュアルもあり、避難情報、避難勧告や避難指示の発令基準も定めている。また、職員の初動対策マニュアルもあり、125自治会で自主防災組織もある。何よりも、市民の防災に対する備えが大切との答弁でした。

深谷市のハザードマップの訂正を

また、市のハザードマップには、河川の氾濫が発生してから避難指示を発令するかのイラストになっているが、氾濫が発生してからでは遅いのではないかと質問に、市は、氾濫が発生した時には、避難が完了していることを想定している。しかし、誤解を生むので見直し、工夫をすることとした。

深谷駅南口付近の上唐沢川の水害対策は

深谷駅南口付近の上唐沢川は、ゲリラ豪雨が発生すると水があふれ、付近の住宅に被害を及ぼす危険がある。岡部方面からくる上唐沢川と折之口方面からくる下唐沢川が合流する所に、高崎線が通っており、その橋の真ん中に鉄筋コンクリートの橋脚があるが、川幅も狭く、流木などが引っかけり流れを止めてしまふ心配がある。市の水害対策はあるのかとの質問に対し、市は、高崎線の橋脚は、JR高崎が管理し、水位計も整備し、警報もなる。市は、上唐沢川の日頃の整備や監視カメラの設置、川があふれる場合は、土嚢を積むなどの対策をとっているとのことでした。



逆行しています。

子ども子育て支援新制度が今年度よりスタートし、子どもが3人以上いる世帯で大幅に保育料が上がるという事態が全国で起きています。同時に運動によって4月に遡って保育料の引き下げを行わせた事例もあります。引き続き年少扶養控除の「みなし適用」の復活を求めていきます。

保育料の多子世帯軽減制度について

深谷市の保育料多子世帯軽減制度は国基準ですが、本年度より「埼玉県多子世帯保育料軽減事業」を実施すること。これにより、保育園に上の子が在籍していても、3歳未満の第3子以降のお子さんの保育料が無料となります。また実施にあたり4月に遡って保育料の軽減を行うとの答弁でした。

公共施設の統廃合について

現在深谷市では、公共施設適正配置計画が策定されています。公共施設適正配置計画は個別の施設名をあげて、集約化や廃止、民営化といった具体的な計画が記述される、市民にとって非常に重要な計画です。この計画に市民の声をどの様に取られるか質問したところ、パブリックコメントを12月下旬〜2月頃にかけて実施することでした。過去の深谷市のパブリックコメントの意見数をみると、広く市民の意見を集めているとは言い難い数です。パブリックコメントと同時に市民説明会を開くべきだと追求しました。